

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-333683

(P2001-333683A)

(43)公開日 平成13年12月4日(2001.12.4)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>

A 01 M 23/30

識別記号

F I

A 01 M 23/30

テ-マコ-ト(参考)

2 B 1 2 1

審査請求 有 請求項の数2 O L (全4頁)

(21)出願番号 特願2000-155364(P2000-155364)

(22)出願日 平成12年5月25日(2000.5.25)

(71)出願人 598072478

守部 都夫

宮崎県兒湯郡新富町大字日置561番地1

(72)発明者 守部 都夫

宮崎県延岡市塩浜3丁目1751番地24

(74)代理人 100087228

弁理士 衛藤 彰

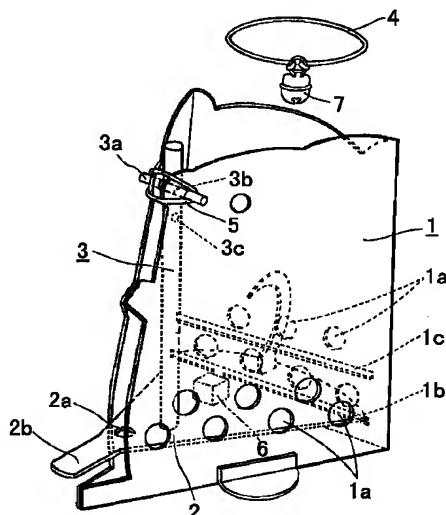
Fターム(参考) 2B121 AA03 BA21 BA26 BA32 BA36  
BA42 CC12 EA01 EA21 FA01  
FA02

(54)【発明の名称】 鼠屠殺器

(57)【要約】

【課題】 捕獲後の鼠の屠殺処理するような手間を省くことができる鼠屠殺器を提供する。

【解決手段】 鼠が突入可能にされると共に、拡大縮絆可能にされた囲み板1と、一端が該囲み板1に係止されると共に、他端が該一端を起点に上下動可能に設けられた餌載置板2と、前記囲み板の上部外周囲に取付けられる鼠屠殺用ゴム輪4をからなり、前記餌載置板2を上動させることにより前記囲み板1を拡径させた状態で鼠屠殺用ゴム輪4を係止させておき、鼠Mが囲み板1内に突入して餌載置板2を押し下げることにより、囲み板1の内径が縮径して鼠屠殺用ゴム輪4が外れ、鼠Mの胴体に嵌るようにする。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 耳が突入可能にされた囲み板と、一端が該囲み板に係止されると共に、他端が該一端を起点に上下動可能に設けられた餌載置板と、前記囲み板の上部外周間に取付けられる鼠屠殺用ゴム輪とからなり、前記餌載置板を上動させた状態で前記鼠屠殺用ゴム輪を係止させるストッパーを設け、耳が前記囲み板内に突入して前記餌載置板を押し下げるにより、前記鼠屠殺用ゴム輪と前記ストッパーとの係合が外れ、鼠屠殺用ゴム輪が耳の胴体に嵌るようにされたことを特徴とする鼠屠殺器。

【請求項2】 耳が突入可能にされると共に、拡大縮径可能にされた囲み板と、一端が該囲み板に係止されると共に、他端が該一端を起点に上下動可能に設けられた餌載置板と、前記囲み板の上部外周間に取付けられる鼠屠殺用ゴム輪とからなり、前記餌載置板を上動させることにより前記囲み板を拡径させた状態で前記鼠屠殺用ゴム輪を係止させておき、耳が前記囲み板内に突入して前記餌載置板を押し下げるにより、囲み板の内径が縮径して、前記鼠屠殺用ゴム輪が外れ、耳の胴体に嵌るようにされたことを特徴とする鼠屠殺器。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明が属する技術分野】 本発明は、耳の撃退器に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 従来、耳を捕獲する装置として、ばね力をを利用して耳を挟んで捕獲するもの、あるいは耳が餌を取ることにより、扉が遮蔽して閉じ込めるもの、あるいは接着シートに接着させて捕獲するものなどがある。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来の多くの耳捕獲器は、捕獲した後の耳を屠殺処理する手間を要するものであった。そこで、本発明者は、耳にゴム輪を嵌めると、驚いた耳は動き廻り30分から1時間程度経過すると、疲労のため排水口や水場あるいは土のある場所へ行って死亡してしまうという習性があるという知見に基づき、この習性を利用した鼠屠殺器を開発した。本発明は、上記のような従来技術の問題点に鑑み、捕獲後の耳を屠殺処理するような手間を省くことができる鼠屠殺器を提供することを目的とするものである。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】 このため本発明の鼠屠殺器は、耳が突入可能にされた囲み板と、一端が該囲み板に係止されると共に、他端が該一端を起点に上下動可能に設けられた餌載置板と、前記囲み板の上部外周間に取付けられる鼠屠殺用ゴム輪とからなり、前記餌載置板を上動させた状態で前記鼠屠殺用ゴム輪を係止させるストッパーを設け、耳が前記囲み板内に突入して前記餌載置板を押し下げるにより、前記鼠屠殺用ゴム輪と前記

ストッパーとの係合が外れ、鼠屠殺用ゴム輪が耳の胴体に嵌るようにされたことを特徴とする。

【0005】 また、耳が突入可能にされると共に、拡大縮径可能にされた囲み板と、一端が該囲み板に係止されると共に、他端が該一端を起点に上下動可能に設けられた餌載置板と、前記囲み板の上部外周間に取付けられる鼠屠殺用ゴム輪とからなり、前記餌載置板を上動させることにより前記囲み板を拡径させた状態で前記鼠屠殺用ゴム輪を係止させておき、耳が前記囲み板内に突入して前記餌載置板を押し下げるにより、囲み板が縮径して、前記鼠屠殺用ゴム輪が外れ、耳の胴体に嵌るようにされたことを特徴とする。

## 【0006】

【発明の実施の形態】 以下、図面に示す実施例に基づいて本発明の実施の形態を説明する。図1及び図2は本発明に係る鼠屠殺器の一実施例を示す斜視図、図3及び図4は耳捕獲器の作動状態を示す側面図である。

## 【0007】

【実施例】 図1乃至図4に示すように、本実施例における耳捕獲器は、囲み板1と、この囲み板1に嵌装される餌載置板2と、棒状のストッパー3と、耳屠殺用のゴム輪4から構成されている。

【0008】 囲み板1は、例えば、ボール紙のような比較的頑強な紙を横断面略三角形状に折曲して、前方辺部が開放した筒状に折曲して耳Mが突入可能に形成されている。囲み板1の前方辺の上端部には、棒状のストッパー3が、その上部に取付けられた係止ピン3aを介して輪ゴム4止めされると共に、この取付輪ゴム4の収縮力でもって閉じられて、その内径が拡大縮径可能にされている。尚、この係止ピン3aは、通常はストッパー3の第1の取付孔3bに挿脱可能に取付けられているが、その下方に設けられた第2の取付孔3cに付替えることにより、ストッパー3の長さを実質的に短縮することができる。このように、ストッパー3を短縮させ、また、後述する餌載置板2のセット位置を通常よりも上方に引き上げることで小型の耳にも対応できるようにされている。

【0009】 围み板1の背面側下部には、長細状の第1の載置板挿入口1b及び第2の載置板挿入口1cが形成されており、餌載置板2を囲み板1の背面側から挿入できるようにされている。餌載置板2は、先端に矩形状の舌片2bが一体的に形成された三角形状で、この三角形状部が囲み板1の内部に挿されている。これにより、餌載置板2の一端が囲み板1に係止されると共に、他端が該一端を起点に上下動可能に嵌装されることとなる。この餌載置板2の前方部には、前記ストッパー3を挿通させるための挿入孔2aが設けられ、挿入孔2aにストッパー3を挿通させながら舌片2bを握んで餌載置板2を引き上げることにより、囲み板1の内径を拡径することができる。

【0010】そして、図2及び図3に示すように、囲み板1の内径が拡径した状態でその上部外周間に前記屠殺用ゴム輪4を係止させておく、鼠Mが前記囲み板1内に頭から突入して前記餌載置板2を押し下げるにより囲み板1の内径が縮径して、前記鼠屠殺用ゴム輪4が外れ、鼠Mの胴体に嵌るようにされている。尚、餌載置板2には餌6が載置されるが、餌6としては油揚げ、肉片、ソーセージ片などが好ましい。尚、囲み板1の両側板及び背面板には、複数の透孔1aが形成され、鼠が外部から餌6を覗認することができるようになっている。

【0011】次に、本実施例に係る鼠屠殺器の作動を、図3及び図4を参照して説明する。餌載置板2の餌6を発見した鼠Mが、囲み板1の上方開口部から囲み板1内部に突入し、餌載置板2を押し下げる、餌載置板2の挿入孔2aとストッパー3との係合が外れる。すると、拡径していた囲み板1の内径が縮径し、屠殺用ゴム輪4が外れ、鼠Mの胴体に嵌る。このゴム輪4は、内径が2.5~3.5cmの大きさであれば、事務用の輪ゴムで良い。この場合、鼠Mの頸部にゴム輪が嵌ると、前足で外してしまうことがあるが、本装置では確実に鼠Mの胴体部分にゴム輪4が掛かるため、鼠Mが自らゴム輪4を外すことは不可能になる。

【0012】このように、ゴム輪4が胴体に嵌まり驚いた鼠Mは、気力動転して動き廻り30分から1時間程度過すると、疲労のため排水口や水場あるいは土のある場所へ行って死亡してしまうのである。また、屠殺用ゴム輪4に鈴7を取り付けておくと、他の鼠を驚かせて撃退することができる。

【0013】尚、上記実施例では、拡大縮径する囲み板1とストッパー3との協動作により屠殺用ゴム輪4の係止及び解除を行っているが、本発明の要旨は、餌載置板2を引き上げた状態でゴム輪4が係止され、この餌載置板2が押し下げるされることでゴム輪4が外れるよう

に構成した点にあり、拡大縮径する囲み板1とストッパー3の双方の構成要素を備える必要はなく、少なくともどちらか一方の手段により屠殺用ゴム輪4の係止及び解除を行うものであれば良い。

#### 【0014】

【発明の効果】本発明は以上のように構成したので、捕獲後の鼠を屠殺処理するような手間を省くことができる。また、1本のゴム輪で一匹の鼠を屠殺することができる所以経済的である。

#### 10 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る鼠屠殺器の一実施例を示す斜視図である。

【図2】本発明に係る鼠屠殺器の一実施例を示す斜視図である。

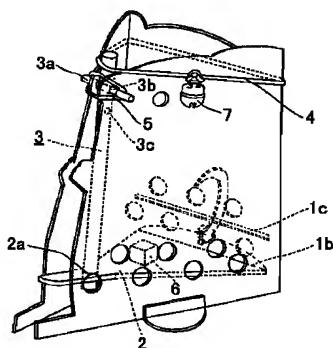
【図3】鼠捕獲器の作動状態を示す側面図である。

【図4】鼠捕獲器の作動状態を示す側面図である。

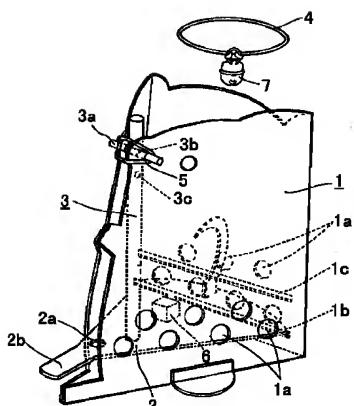
#### 【符号の説明】

1	囲み板
1a	透孔
1b	第1の載置板挿入口
1c	第2の載置板挿入口
2	餌載置板
2a	ストッパー挿通孔
2b	舌片
3	ストッパー
3a	係止ピン
3b	第1の係止ピン取付孔
3c	第2の係止ピン取付孔
4	屠殺用ゴム輪
5	輪ゴム
6	餌
7	鈴

【図2】

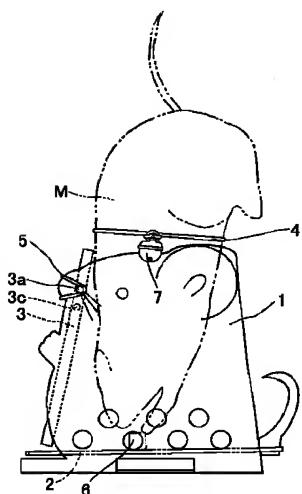
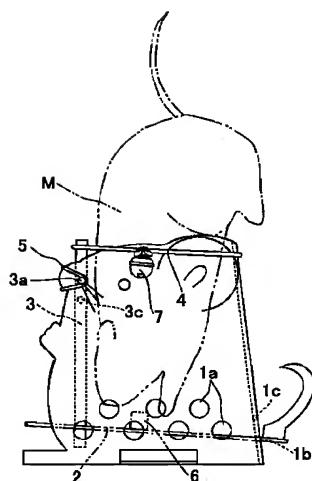


【図1】



【図4】

【図3】



**PAT-NO:** JP02001333683A  
**DOCUMENT-IDENTIFIER:** JP 2001333683 A  
**TITLE:** RAT-SLAUGHTERING DEVICE  
**PUBN-DATE:** December 4, 2001

**INVENTOR-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
MORIBE, IKUO	N/A

**ASSIGNEE-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
MORIBE IKUO	N/A

**APPL-NO:** JP2000155364  
**APPL-DATE:** May 25, 2000

**INT-CL (IPC):** A01M023/30

**ABSTRACT:**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a rat-slaughtering device which can save labors such as a treatment for slaughtering a trapped rat.

**SOLUTION:** This rat-slaughtering device comprising a closing plate 1 into which a rat can plunge and which can be expanded or contracted, a bait-loading plate 2 whose one end is fixed to the closing plate 1 and whose other end can upward or downward be moved on the one end as a base point,

and a rubber band 4 which is attached to the upper outer periphery of the closing plate and is used for slaughtering the rat is characterized by upward moving the bait-loading plate 2 to hold the rat-slaughtering rubber band 4 in a state expanding the closing plate 1, whereby when the rat M plunges into the closing plate 1 to press down the bait-loading plate 2, the inner diameter of the closing plate 1 is contracted to slip out the rat-slaughtering rubber band 4, thus fitting the rubber band 4 to the body of the rat M.

COPYRIGHT: (C) 2001, JPO